

# みずくらしいど

校長 加藤雅弘

## おかげで今の皿沼小がある

6年生

今までの卒業生、地域の方々、先生方のおかげで今の皿沼小があります。みなさんも皿沼小のよいところが続いていくように、校舎やルールを大切にしていきたいと思います。

この言葉は本日行われる予定の記念児童集会前振りとして行われた火曜日朝ズーム集会の終わりの言葉で6年生が話したものの一部です。私は中継していた理科室で聞いていましたが、しびれました。6年生は4月から総合の時間を使って、皿沼小と地域の歴史について調べてきました。その結果たどり着いた境地、そしてそこから全校へのメッセージとして発信されたのだと思います。

私は周年行事の取り組みを学校や地域に対する愛情を育てる場にしたいと考えていましたが、この6年生の言葉は想定を超えていました。児童一人一人が主体的に調べるとともに、実際に当時の先生などから直接話を伺ったことが大きかったのではないかと感じています。思いは、人から人へ伝わっていく、そんなことも改めて実感しました。

## 学んだことは使える

校長

「リットル」って、算数で学習しましたね。そのことが、梅の木を育てる時にも役に立ちます。学んだことが使える「学びはお金」の例ですね。

これも火曜日に行われた周年行事の一つ「植樹」の場面での一コマです。「学校の木を知ろう！伝えよう！育てよう！プロジェクト」として、5年生が学校中の樹木について調べ、その情報を基に中学年が名札を作製、低学年は、校章に描かれている梅の木を植樹しました。

一昨日の朝から、地域の方々に構成される周年行事実行委員会の委員長をお務めいただいている榎本様（第9代PTA会長）にご助力を得て、各クラス1本ずつ、4本の植樹を行いました。2年生が、土をかぶせ、最後に育て方の説明「雨が降らなければ、昼休み週に1回程度2リットルの水をあげる」を受けた際に、私が伝えたのが上の吹き出しです。ハイブリッド期間、2年生は、算数の単元を入れ替え、リモートでもできる「かけ算」を先行し「水のかさ」を全員登校になってから行うことを聞いていましたし、実際に理科室で行われる授業も垣間見えたので、これは、「学びはお金」の具体例を実感するチャンスだと考えました。

前号は開校記念日当日に発行し、どんな取り組みが行われているかお伝えしました。来週にかけて、育ててきた種が一気に開花します。また、開校記念日当日には、学校宛てに「お誕生日カード」を作ってプレゼントしてくれた児童も複数いました。この周年関係でも一人一人が自分で考え「主体的に取り組む態度」を育ててくれていること、とてもうれしく思いました。